

平成29年度 奈良県立五條高等学校（全日制）学校評価総括表

学校経営方針	<p><b>夢の実現を目指した活力ある学校</b></p> <p>～ 適切な「判断と決断」少しの「勇気」 夢の実現に向けた「挑戦」～</p> <p>本校では、将来の目標を見据えて、常に高い志をもって行動できる生徒の育成に重点を置いている。そのために、生徒各自の適切な「判断と決断」・少しの「勇気」・夢の実現に向けた「挑戦」をキーワードとして、生徒自らが主体的に取り組む態度を育成する。さらに、「社会で自立して生き抜く力の育成」を目指し、「未来につながる確かな学力」「豊かな心で人と連なるコミュニケーション能力」「困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識」の向上に努める。</p>	総合評価				
前年度の成果と課題	<p>これまで、生徒の実態に合わせながら、充実した施設設備を最大限に活用し、創造的で独創的な多くの取組を積極的に実践することによって、①『学校の魅力づくり』と ②『入学希望生徒の確保』を学校経営の主眼点とし、学校の活性化に取り組んできた。学校改革に向けた取組をはじめ10年余りが経過したが、地元五條市域等の少子化の進行で不安定要素が大きくなっている。平成27年度においては、入試におけるスクールバスの運行による中学校やその保護者に対する広報、平成28年度においては、スクールカウンセラー、教育相談スーパーバイザーの単独配置による教育相談体制の構築、学校運営協議会の設置による地域と共にある学校づくりの推進、グラウンド人工芝生化による施設・設備の充実等、10年後を視野に入れた新しい学校改革にむけて、積極的な取組を進めた。今後とも、現状の課題を整理しながら、生徒・保護者の期待に応えるべく、学力の向上を図るなど更なる改善・充実を図る必要がある。</p>			B		
本年度の重点目標		評価の指標（担当）等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
具体的目標 ○主な具体的方策						
<p>1 「社会で自立して生き抜く力」の育成</p> <p>(1) 未来につながる確かな学力 ①学習指導の工夫改善、家庭での主体的な学習習慣の定着 ○生徒の基礎学力の向上を図る。</p> <p>②少人数・習熟度別指導の充実、外部講師の活用 ○生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。</p> <p>③オーストラリア姉妹校交流による国際感覚の涵養 ○オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。</p> <p>④計画的・系統的な進路指導とキャリア教育の充実 ○進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。</p>		<p>⇒生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができる。」(教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:80%〉</span></p> <p>⇒保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」(教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:85%〉</span></p> <p>⇒生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」(教務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:75%以上〉</span></p> <p>⇒本校よりの短期海外研修における参加人数(総務部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:15名〉</span></p> <p>⇒生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」(進路指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:90%以上〉</span></p> <p>⇒生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」(進路指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:90%〉</span></p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「うまく学習を進めることができる」が79.2%、「内容がよく理解できそうである」が72.5%。</li> <li>保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」83.6%。</li> <li>3項目とも目標達成にわずかに届かなかった。</li> <li>一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、多様化する生徒に対して、さらなる授業改善を含めた工夫が必要である。</li> <li>本年度は12名が短期海外研修に参加し、事前研修にも十分時間を取った。</li> <li>「進路実現ができた」生徒は87.6%でほぼ前年並であった。また、「丁寧な進路指導」は80.2%(保護者アンケートは82.2%)で昨年を下回る結果となった。進路実現のための確かな学力の育成や相談体制の拡充が課題となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、さらに授業改善に取り組む。</li> <li>生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。</li> <li>本校の学習活動について、Webページ等を通じて保護者に周知する。</li> <li>短期研修や交流会の成果を、全校生に還元できるような機会を設ける。</li> <li>確かな学力育成のために各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。</li> <li>新たな取組より、現在取り組んでいることの点検作業を行い内実を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートは、数値目標を明確にするとともに、もっと焦点化してもいいのではないか。</li> <li>小学校でも英語が3年生から履修になってくるので、オーストラリアへの留学の取組は素晴らしいと思う。</li> </ul>
<p>(2) 豊かな心で、人と連なるコミュニケーション能力 ①地域と繋がり、地元貢献するボランティア活動の推進 ○通学路美化活動を実施する。</p> <p>②生徒が主体的に運営する学校行事の工夫 ○生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>五條市学生版元気なまちづくり交付金関連の取組及び地域イベントへの参加・協力</li> </ul> <p>⇒通学路美化活動を学期に1回実施する。(環境美化部)</p> <p>⇒生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心を持っている内容である」(生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:80%〉</span></p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交付金を活用して、小学生対象のサッカーフェスティバルやあい染め、わた糸つむぎの体験会を開催した。また、五條市市制施行60周年記念事業にも積極的に参加・協力した。</li> <li>通学路清掃は、参加人数が多かった。そのため、別コースを設定した。</li> <li>生徒会活動に関するアンケート結果は、72.0%と昨年度の68.6%より上昇しているが、まだ生徒会執行部だけが活動している印象を生徒がもっているようなので、全校的に活動が活性化するようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と共にある学校づくり、コミュニティ・スクールの取組を推進する分掌を設置する。</li> <li>別コース(五万人の森)を設定したことがよかった。</li> <li>全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五條高校の生徒は素晴らしい子が多いと思う。もっと他の地域に出て活動させてもいいと思う。</li> </ul>
<p>(3) 困難に打ち克つ体力・忍耐力・規範意識 ①部活動活性化による「文武両道」の実現 ○部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。</p> <p>②「金剛登山」など、豊富な体育的行事で鍛える体力・忍耐力 ○体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上を図るとともに生徒を主体とした体育活動を実施する。</p> <p>③交通安全教育・挨拶運動等による規範意識の醸成 ○街頭での交通安全指導、原付免許取得者や自転車</p>		<p>⇒部活動加入率(生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:80%〉</span></p> <p>⇒各体育行事の参加率(保健体育部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:95%以上〉</span></p> <p>⇒事故件数・違反件数(生徒指導部) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">29年度〈目標:0件〉</span></p>	<p>B</p> <p>A B</p> <p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率は、75.9%と昨年度の75.6%より増加したが、目標達成していない。引き続き、積極的に部活動に参加するように呼びかけていきたい。</li> <li>人工芝の効果があつて多少の雨でも翌日に影響することなく体育大会、球技大会を実施することができた。近年にない寒波の中であったが耐寒登山も無事実施し、各行事とも参加率95%以上を達成した。</li> <li>交通事故件数が6件と昨年度より1件増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。</li> <li>人工芝化に伴う熱中症等の大きな事故は発生しなかったが体育行事の設定や設営など、まだまだ工夫、改善が必要である。</li> <li>交通安全、挨拶、規則の遵守な</li> </ul>	

<p>通学生徒に対する各種集会を通して安全運転の意識を高める。</p>			<p>その内、原付による事故が5件で、残り1件は自転車であるが事故被害者である。さらに安全運転やマナーの向上の啓発に努めていきたい。</p>	<p>ど、あらゆる機会を通して、全職員で継続して取り組む。些細な点に気づける体制作りを検討する。</p>	
<p>2 外部との連携・情報発信の強化</p>					
<p>①地域と共にある学校づくりの推進</p> <p>②育友会・同窓会との連携強化 ○育友会活動に参加しやすい状況を確認する。</p> <p>③HPの充実等による効果的な広報活動の推進 ○HPの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。</p>	<p>・高校生社会参加活動推進事業 ・県立学校による地域との協働推進事業 中学生のための教科開放講座・スポーツ教室等の開催 ⇒育友会の会員研修会への参加者数（総務部） <b>29年度〈目標:30名〉</b></p> <p>⇒学校Web年間更新回数（総務部） <b>29年度〈目標:120回〉</b></p>	<p>B A</p>	<p>・中学生のための教科開放講座・五高セミナー21名参加、スポーツ教室20名参加</p> <p>・育友会役員会・企画委員会を年間各3回開催し役員との意見交流を図るとともに、文書・メール・電話による連絡によって、良好な協力・支援関係を構築できた。研修会参加者は17名。</p> <p>・同窓会総会・理事会に参加するだけでなく日頃から連絡を密にしているが、同窓会担当の業務引継が不十分なところがあった。</p> <p>・年間更新回数は約100回に達し、学校行事に関する内容はタイムリーに発信できた。</p> <p>・保護者対象アンケートにおいて、本校Webページを「よく見ている」「ときどき見ている」と答えた保護者は43%であった。</p> <p>・部活動の活動状況や成績の発信をさらに充実させる必要がある。</p>	<p>・スポーツ教室（陸上・水泳・卓球）、カルチャー教室（吹奏楽等）の実施。</p> <p>・育友会役員会の在り方を工夫し、さらに学校運営に協力・援助していただける体制を作る。</p> <p>・同窓会担当の業務内容を、年間を通して整理し、計画的に取り組めるようにする。</p> <p>・各分掌等でWebページ担当者を決めてもらい、情報収集と提供をお願いする。</p> <p>・Webサイトの部活動ページを充実させるために、更新内容をデータで知らせてもらうシステムを作る。</p>	<p>・地域との連携は、継続性が大切であると考える。単にイベントに参加するだけではなく、小中高一環、地域一環で取り組まねばならないと思う。</p> <p>・陸上部、吹奏楽部等の小中高の連携について感謝している。ふるさと学習の教材として五條かるたの作成にも関わられたが、今後も地域のことを掘り下げて、新たな連携をおねがいをしている。</p>
<p>3 安定した入学希望者の確保</p>					
<p>①グラウンド人工芝化による諸活動の活性化</p> <p>②地域・中学校との連携と学習塾へのアプローチ ○オープンキャンパスを開催する。</p> <p>③生徒の可能性を最大限に伸ばせる指導の充実 ○進路指導にかかわる職員研修の機会を適宜持つ。</p>	<p>・施設開放や小中学生を対象としたスポーツ交流・イベントの開催 ⇒オープンキャンパス参加者数（総務部） <b>29年度〈目標:420名〉</b></p> <p>・中学生のための教科開放講座（五高セミナー）・スポーツ教室の開催 ⇒全体、学年ごとを合わせて、総数5回。（進路指導部）</p>	<p>B B B</p>	<p>・小学生対象のサッカーフェスティバルの開催や実験的に小学生の学校訪問、グラウンドでの体験活動を実施した。また、サッカー奈良クラブ等との交流の機会を得ることができた。</p> <p>・オープンキャンパス参加者数は340名、アンケートの結果は概ね好評であった。食堂体験は盛況で、247食を販売した。対外試合等で見学・体験ができない部があった。</p> <p>・中学生のための教科開放講座・五高セミナー21名参加、スポーツ教室20名参加（再掲）</p> <p>・職員研修は全体に3回、各学年や若手教員を対象に4回、計7回実施した。情報の提供や共通理解の深化のためには、研修の必要性や趣旨を周知するとともに、段階を追って計画的に実施する必要がある。</p>	<p>・小学生の学校訪問（グラウンド等本校施設を活用した体験活動）に関する取組を拡充する。</p> <p>・オープンキャンパスにおける部活動見学・体験をより活発にできるように日程・内容を検討する。</p> <p>・スポーツ教室（陸上・水泳・卓球）、カルチャー教室（吹奏楽等）の実施。</p> <p>・進路指導の全体目標とともに、各場面に応じたタイムリーなテーマ設定および研修の実施日を早期に計画する。</p> <p>・進路実現のための学力向上や進路相談体制について、テーマが偏らないように計画する。</p>	<p>・五條高校の地域連携の様子をもっとアピールしてもいいのではないかと。</p>
<p>4 学校改善のための組織的取組</p>					
<p>①コミュニティ・スクール（学校運営協議会）による学校改革と諸活動の最適化</p> <p>②教育相談体制の充実 ○教育相談体制を確立する。</p> <p>③授業力向上を目指した取組の充実 ○各教科の研究授業を1回以上行い、その約半数の教科で指導主事を招いて実施する。</p> <p>④いじめを許さない学校づくりの推進 ○人権教育ホームルームでの内容に「なかまづくり」を導入する。</p> <p>⑤藤花寮の安定した維持管理</p> <p>⑥スクールバスの活用</p>	<p>⇒生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」（生徒指導部） <b>29年度〈目標:80%〉</b></p> <p>⇒授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。（教務部） <b>29年度〈目標:70%以上〉</b></p> <p>⇒教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」（教務部） <b>29年度〈目標:80%以上〉</b></p> <p>⇒生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、人権問題について考える機会が多い」（人権教育部） <b>29年度〈目標:92%〉</b></p>	<p>B B B B</p>	<p>・学校運営協議会全体会2回、全日制部会2回開催</p> <p>・アンケート結果が、H28年度70.6%からH29年度72.0%と上昇した。カウンセラーが定期的に来校してくれているのは大きいと思われる。</p> <p>・授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が65.5%であった。</p> <p>・教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が79.2%。</p> <p>・2項目とも目標達成にわずかに届かなかった。</p> <p>・指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開の他、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。</p> <p>・生徒アンケート「人権問題について考える機会が多い」が、昨年度90.8%から今年度92.4%に少し増加した。</p> <p>・藤花寮生保護者集会2回開催、 ・空調設備設置工事2月末完了予定</p>	<p>・コミュニティ・スクールの取組を推進する分掌を設置し、学校・家庭・地域が一体となった協働関係の構築を図る。</p> <p>・今年度以上に面談内容の充実に努める。</p> <p>・研究授業、他教科の授業参観については、主体的、対話的で深い学び（いわゆるアクティブラーニング）や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。</p> <p>・授業改善に向けた取組が活発になるよう、方法をさらに工夫していきたい。</p> <p>・人権教育ホームルームの指導案を各クラスで作成し、生徒の実態に合わせて改善する。</p> <p>・人権教育ホームルームを年間指導計画に基づき、計画のとおり実施する</p> <p>・バス車両の更新（予定）。</p>	<p>・研究授業の取り組みを進めてもらいたい。</p>

各分掌等の評価総括

分掌等	具体的目標	具体的方策	評価の指標等	自己評価	成果と課題	改善方策等	学校関係者評価
総務部	1-(1)-③ ○ 異文化理解を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>オーストラリア・ガートン校との海外短期研修を円滑に行う。</li> <li>「日韓中ESD-GAP推進国際ワークショップ」等の異文化理解の交流会に参加する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校よりの短期研修において、参加人数の増加を図り、国際的な視野を広げさせる。 29年度〈目標:15名〉</li> <li>異文化理解の交流会に参加し、事後学習をする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度は12名が短期海外研修に参加し、事前研修にも十分時間を取った。</li> <li>1年生6名3年生7名が計10回のセミナーとワークショップに参加し、他校生や小学生とESDに基づいた学び合いをした。地域や学校における課題に目を向けたり、持続可能な社会づくりのために自分たちができることは何かを考える機会となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期研修や交流会の成果を、全校生に還元できるような機会を設ける。</li> <li>ガートン校よりの研修生のホームステイ受け入れ家庭の確保に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校でも英語が3年生から履修になってくるので、オーストラリアへの留学の取組は素晴らしいと思う。</li> </ul>
	2-② ○ 外部への情報発信の充実に努め、積極的に意見聴取を行うことにより、育友会・同窓会・地域との連携を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会・同窓会との連携を密にし、学校運営に対する協力・援助を求める。</li> <li>育友会役員会に参加しやすい状況を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会・同窓会の定例会に参加し、機会に応じて学校との交流を図る。</li> <li>育友会の会員研修会への参加意識を高める。 29年度〈目標:30名〉</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会役員会・企画委員会を年間各3回開催し役員との意見交流を図るとともに、文書・メール・電話による連絡によって、良好な協力・支援関係を構築できた。研修会参加者は17名。</li> <li>同窓会総会・理事会に参加するだけでなく日頃から連絡を密にしているが、同窓会担当の業務引継が不十分なところがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>育友会役員会の在り方を工夫し、さらに学校運営に協力・援助していただける体制を作る。</li> <li>同窓会担当の業務内容を、年間を通して整理し、計画的に取り組めるようにする。</li> </ul>	
	2-③ ○ 学校ホームページや掲示板等を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPの充実を図り、保護者等にリアルタイムで学校の状況を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間更新回数を増加させ、情報をタイムリーに発信する。 29年度〈目標:120回〉</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間更新回数は約100回に達し、学校行事に関する内容はタイムリーに発信できた。</li> <li>保護者対象アンケートにおいて、本校Webページを「よく見ている」「ときどき見ている」と答えた保護者は43%であった。</li> <li>部活動の活動状況や成績の発信をさらに充実させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分掌等でWebページ担当者を決めてもらい、情報収集と提供をお願いする。</li> <li>Webサイトの部活動ページを充実させるために、更新内容をデータで知らせてもらうシステムを作る。</li> </ul>	
	3-② ○ 中学生やその保護者を対象に五條高校の魅力を情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>五條高校紹介のパンフレット等を作る。</li> <li>オープンキャンパスを開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学校案内』(5,000部)、『Good Job通信』(年間4回)『キャンパスライフ』等の内容を検討し、改訂する。</li> <li>9月の第4週土曜日に開催する。 29年度〈目標:420名〉</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学校案内』7月に4,000部発行し、中学校訪問や学校説明会に使用した。</li> <li>『Good Job通信』年間4回発行し、県内48校の中学校の3年生のクラスに掲示依頼した。</li> <li>『キャンパスライフ』より分かりやすく使いやすいように内容を整理した。</li> <li>オープンキャンパス参加者数は340名、アンケートの結果は概ね好評であった。</li> <li>食堂体験は盛況で、247食を販売した。</li> <li>対外試合等で見学・体験ができない部があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『学校案内』は、より一層中学生・保護者にアピールできるものになるよう研究を続ける。</li> <li>オープンキャンパスにおける部活動見学・体験をより活発にできるように日程・内容を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>五條高校の地域連携の様子をもっとアピールしてもいいのではないか。</li> </ul>
教務部	1-(1)-① / 1-(1)-② ○ 学習活動の工夫を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の基礎学力の向上を図る。</li> <li>生徒の実態に応じた授業展開、教材開発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「五條高校で行われている授業や課題、小テスト等に取り組むことで、うまく学習を進めることができている。」 29年度〈目標:80%以上〉</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「うまく学習を進めることができている」が79.2%、「内容がよく理解できそうである」が72.5%。(1学期末)</li> <li>保護者アンケート「授業の内容や進め方に満足している」83.6%。(2学期末)</li> <li>3項目とも目標達成にわずかに届かなかった。</li> <li>一部の授業で習熟度別・少人数指導を導入しているが、多様化する生徒に対して、さらなる授業改善を含めた工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者の授業満足度を向上させるため、身に付けさせたい力を明確にし、さらに授業改善に取り組む。</li> <li>生徒の進路実現を念頭におき、生徒の主体的な学びにつなげる授業展開、課題、小テスト等、学力養成の方策を各教科で検討する。また、実力テスト等の結果を分析し、取組の検証を行う。</li> <li>本校の学習活動について、Webページ等を通じて保護者に周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートは、数値目標を明確にするとともに、もっと焦点化してもいいのではないか。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート「五條高校では授業の方法が自分に適していて、内容がよく理解できそうである」 29年度〈目標:75%以上〉</li> </ul>	B			
			<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケート「五條高校で行われている授業の内容や進め方に満足している」 29年度〈目標:85%以上〉</li> </ul>	B			
4-③ ○ 授業と評価の改善、指導力向上を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の研究授業を1回以上行い、その約半数の教科で指導主事を招いて実施する。</li> <li>指導主事を招いた研究授業では、研究協議に教科の教員が全員参加できるよう努める。</li> <li>他教科の任意の授業を参観する期間を設け、参観希望授業の集約や調整、時間割変更を確実に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合を増やす。 29年度〈目標:70%以上〉</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートにおいて、1学期末の評価より2学期末の評価が向上した教員の割合が65.5%であった。</li> <li>教員アンケート「授業改善に向けた取組が活発に行われている」が79.2%。</li> <li>2項目とも目標達成にわずかに届かなかった。</li> <li>指導主事を招いた研究授業や各教科による授業公開の他、公開授業も学期に1回以上行い、教科を超えた授業研究を行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業、他教科の授業参観については、主体的、対話的で深い学び(いわゆるアクティブラーニング)や観点別評価を視野に入れながら、次年度も継続する。</li> <li>授業改善に向けた取組が活発になるよう、方法をさらに工夫していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業の取組を進めてもらいたい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>教員アンケート「五條高校では、研究授業など、授業改善に向けた取組が活発に行われている」 29年度〈目標:80%以上〉</li> </ul>	B				
生徒指導部	1-(3) ○ 基本的な生活習慣を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や言葉遣い、身だしなみ、時間を守ること等、基本的な生活習慣を確立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間欠席総数 目標昨年度比約10%以上減 29年度〈目標:2300回〉</li> <li>年間遅刻総数 目標昨年度比約10%以上減 29年度〈目標:800回〉</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末現在、欠席総数2574回と目標をすでに上まわってしまっている。様々な原因が考えられるが、不登校生徒が多く、今後個人面談やカウンセラーの活用を含む教育相談の取組、居場所のあるクラス作りをさらに充実させ安心して登校できる環境作りを目指す。</li> <li>1月末時点で遅刻総数は822回と目標達成ならな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携を一層密にして保護者の協力を得られるよう努力する。学校カウンセラー、外部の専門機関との連携を図り、不登校生徒の支援をする。</li> </ul>	

					かった。来年度の課題とする。		
	1-(3)-③ ○ 交通安全指導の徹底を図ると共に規範意識を向上させる。	・街頭での交通安全指導を実施するとともに、原付免許取得者や自転車通学生徒に対して各種集会を通して安全運転の意識を高める。事故・違反ともに絶無を目指す。 ・ホームルーム活動を通して、規範意識や人を思いやる態度を育成し、豊かな人間関係を築かせる。	・原付免許取得者集会、単車通学生集会、単車実技講習会、自転車通学生集会をそれぞれ開催する。 事故件数 <u>29年度〈目標:0件〉</u> 違反件数 <u>29年度〈目標:0件〉</u>	B	・交通事故件数が6件と昨年度より1件増加した。その内、原付による事故が5件で、残り1件は自転車であるが事故被害者である。さらに安全運転やマナーの向上の啓発に努めていきたい。 ・生徒アンケートの結果、「規則や決まりをきちんと守っている」生徒は96.8%で、大半が校則を守っている。	・交通安全、挨拶、規則の遵守など、あらゆる機会を通して、全職員で継続して取り組む。些細な点に気づける体制作りを検討する。	
	1-(2)-①② / 1-(3)-① / 2-① ○ 生徒会活動や部活動を積極的に奨励し、生徒の主体的活動を促進する。	・生徒会執行部の活動の活性化を図り、魅力ある実践活動を目指す。 ・部活動加入に向けた取組を工夫し、部活動加入率を向上させる。 ・各部に所属する生徒一人一人の所属感、使命感、活動意欲の高揚を図るため集会を開催する。	・生徒アンケート「五條高校の生徒会活動は活発で、関心が持てる内容である」 <u>29年度〈目標:80%〉</u> ・部活動加入率 <u>29年度〈目標:80%〉</u> ・部員集会やキャプテン会議を学期に1回以上開催する。	B	・生徒会活動に関するアンケート結果は、72.0%と昨年度の68.6%より上昇しているが、まだ生徒会執行部だけが活動している印象を生徒がもっているようなので、全校的に活動が活性化するようにしていきたい。 ・部活動加入率は、75.9%と昨年度の75.6%より増加したが、目標達成していない。引き続き、積極的に部活動に参加するように呼びかけていきたい。	・全校生徒が生徒会の一員であるという自覚をもたせ、執行部を中心に様々な活動を行う必要がある。 ・今以上に生徒が魅力を感じる部活動になるよう、顧問と生徒が共に努力する。	
	4-② ○ 教育相談体制を確立する。	・教育相談体制を整備して、支援を必要とする生徒（不登校傾向を示す生徒や特に困難な課題を持つ生徒等）やその保護者を対象に、外部機関と連携を図りながらカウンセリングを受ける機会を広げる。	・問題を抱える生徒の早期発見、早期対応、予防的な取組を行う。 ・当該生徒対象にケース会議を審査期間中に開き、対応を検討する。 ・生徒アンケート「五條高校の先生は親身になって接してくれ、気軽に相談できる」 <u>29年度〈目標:80%〉</u>	B	・アンケート結果が、H28年度70.6%からH29年度72.0%と上昇した。カウンセラーが定期的に来校してくれているのは大きいと思われる。	・今年度以上に面談内容の充実に努める。	
進路指導部	1-(1)-②④ ○ 計画的・系統的な進路指導を行う。	・集会や説明会等を行うことで、望ましい勤労観、職業観を含め、進路について広く深く考えさせる。	・集会、説明会等の実施総数10回。	A	・3年進路内定者集会をはじめ、学年全体や希望者対象の説明会を計15回開催した。集会の目的や中身が、より生徒に浸透するような働きかけをしていかなければならない。	・「夢の扉」を活用して各学年段階での目標を生徒にも理解させ、系統的・計画的な進路指導体制ができるよう担任と進路部の連携を密にする。	
	1-(1)-④ / 3-③ ○ 生徒一人一人の進路の実現に向けて、明確な目的意識を持って学習に取り組ませる。	・進路決定に向けたホームルーム活動や相談活動を充実させる。	・生徒アンケート(第3学年)「自分の希望する進路実現ができた」 <u>29年度〈目標:90%以上〉</u> ・生徒アンケート(全学年)「五條高校では、生徒一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」 <u>29年度〈目標:90%〉</u>	B	・「進路実現ができた」生徒は87.6%でほぼ前年並であった。また、「丁寧な進路指導」は80.2%(保護者アンケートは82.2%)で昨年を下回る結果となった。進路実現のための確かな学力の育成や相談体制の拡充が課題となる。	・確かな学力育成のために各教科や教務部との連携、教育課程の検討を行っていく。 ・新たな取組より、現在取り組んでいることの点検作業を行い内実を高める。	
	1-(1)-④ / 3-③ ○ 望ましい勤労観、職業観を身に付けさせる。	・進路指導にかかわる職員研修の機会を適宜持つ。	・全体、学年ごとを合わせて、総数5回。	B	・職員研修は全体に3回、各学年や若手教員を対象に4回、計7回実施した。情報の提供や共通理解の深化のためには、研修の必要性や趣旨を周知するとともに、段階を追って計画的に実施する必要がある。	・進路指導の全体目標とともに、各場面に応じたタイムリーなテーマ設定および研修の実施日を早期に計画する。 ・進路実現のための学力向上や進路相談体制について、テーマが偏らないように計画する。	
人権教育部	1-(2) ○ 職員の人権意識の資質向上を図る。	・人権教育推進に関する職員研修会を実施する。	・年1～2回に、外部から招聘した講師による研修会を開く。	A	・「コミュニケーションのコツ」と題して研修会を持った。 ・各種研究大会及び研修会に積極的に参加した。	・一人一人を大切に取る取組を継続する。 ・先生方の自主的な研修への参加を促す。	
	1-(2) / 4-④ ○ 人権教育・道徳教育の充実を図り、人間としての在り方生き方を大切に育てる。	・人権教育ホームルームでの内容に「なかまづくり」を導入する。 ・道徳教育の全体計画を作成し、道徳教育を推進する。	・生徒の実態に応じた人権教育年間計画を作成する。 ・道徳教育全体計画に基づき実施し、成果を検証する。 ・生徒アンケート「五條高校では、授業やHRにおいて、人権問題について考える機会が多い」 <u>29年度〈目標:92%〉</u>	B	・生徒アンケート「人権問題について考える機会が多い」が、昨年度90.8%から今年度92.4%に少し増加した。	・人権教育ホームルームの指導案を各クラスで作成し、生徒の実態に合わせて改善する。 ・人権教育ホームルームを年間指導計画に基づき、計画のとおり実施する。	
	1-(2) ○ 生徒の人権意識を高める。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書の文案作成を各分掌に依頼し、多様な視点から人権について考えさせる。	・毎月の「人権を確かめあう日」に生徒・保護者向けの啓発文書を年10回発行する。	A	・生徒・保護者向け啓発文書を10回発行した。 ・人権係は啓発文書の配布日に放送アピールを行った。	・保護者からの感想がほとんど無く、文書が保護者により多く届けられるよう生徒に啓発をする。	
	1-(2) ○ 人権系の力量を高める。	・全学年のホームルームから人権係を2名ずつ選出、人権意識向上の活動を行う。	・「人権を確かめあう日」の啓発文書配布時に、係生徒が全校生徒向けにその趣旨を放送によりアピールする。	B	・人権係の手話講習会を年2回実施した。 ・人権映画会で人権係による進行ができた。 ・解放研の活動が低調であった。	・人権系の活動が全体への活動へと広げられるよう工夫する。 ・解放研活動が継続するよう指導	

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権係の生徒対象に人権にかかわる講習会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動に積極的に参加する。</li> <li>・講習会を実施し、クラスでの人権教育の中心として活動できる力量を育てる。</li> <li>・人権映画会の司会を人権係が担当する。</li> </ul>	B			する。	
文化 図書部	1-(2)-② ○ 文化行事の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化行事の実施により、生徒の自主性や創造性を伸ばし、生徒自らが文化的な活動に取り組む意欲を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭2日間の欠席者数を生徒総数の1%未満にする。 29年度〈目標:10名未満〉</li> <li>・カルタ大会・おはなし会を実施する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭は、3部門での発表を盛大に開催できた。欠席は2日間で延べ24人であった。文化委員有志のデザインによる『調理スタッフバッジ』を作製するなど、生徒の創意工夫を生かした。</li> <li>・カルタ大会やおはなしの会も盛況だった。今年度よりカルタ大会の優勝者、優勝クラスの表彰を全校生徒の前で行うようにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭の展示・演技部門の内容及び鑑賞方法について検討し、生徒がさらに積極的に参加できるようにする。なお、文化祭の運営について、生徒指導部生徒会係との連携を密にする。</li> <li>・両会の実施方法について再検討し、生徒にとって意義深いものになるように工夫する。</li> </ul>	
	1-(2)-② ○ 図書館利用の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『図書館報』『図書館だより』を発行し、図書館利用を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用者の増加を図る。 29年度〈目標:11,000人〉</li> <li>・貸出冊数の増加を図る。 29年度〈目標:1,600冊〉</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用者は1月31日現在で延べ9194人、貸出冊数は1437冊と、前年同時期より上回った。『図書館報』『図書館だより』の発行も順調であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の増加を図るため、今後も生徒の図書リクエストに応えるとともに、授業や部活動での図書館利用を促す。</li> </ul>	
	1-(1)-① ○ 読書活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の読書の機会を増やし、自ら読書に取り組み、自らの生活を豊かなものにしようとする態度を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書の時間」を月曜日と木曜日のSHRに7分設定し、考査後1週間は、すべての日で実施。読書の習慣を身に付けさせる取組を進める。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書の時間」は当初の計画通り実施できた。生徒の読書への取り組みには不十分な点もあったが、「読書HR」用の朗読CDや集団読書テキストの利用は活発であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒によるPOPカード作りを引き続き実施すると共に、教員による推薦図書紹介も充実させる。</li> </ul>	
保健 体育部	1-(1)-① / 1-(2)-② / 1-(3)-② ○ 体育活動を積極的に取り組む姿勢を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育活動を通して生徒の心身の健全な発育と体力の向上、(脚力、忍耐力を鍛える)を図るとともに生徒を主体とした体育活動を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技大会、体育大会。耐寒登山を実施する。</li> <li>・各行事の目標参加率を95%以上とする。</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工芝の効果があつて多少の雨でも翌日に影響することなく体育大会、球技大会を実施することができた。近年にない寒波の中であつたが耐寒登山も無事実施し、各行事とも参加率95%以上を達成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工芝化に伴う熱中症等の大きな事故は発生しなかったが体育行事の設定や設営など、まだまだ工夫、改善が必要である。</li> </ul>	
	○ 体力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育活動を通じて人と連なるコミュニケーション能力を培う。</li> <li>・体育の授業だけでなく自らの生活の中で体力向上をめざす運動習慣を確立させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力測定、スポーツテストの結果を踏まえ全学年とも前年度を上回ること。(8項目中5項目以上数値アップを目指す)</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力測定・スポーツテストの結果、各学年男子生徒が2、3項目の数値アップにとどまり、女子については現状維持かダウン傾向にあり全体的なレベルアップが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子生徒だけをみると全体的に学年を通してバランスが良くレベルアップしているように見える。普段のトレーニングに加え、女子生徒の運動機会を増やすことも必要と思われる。</li> </ul>	
環境 美化部	○ 校内美化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の清掃活動により校内美化を推進する。</li> <li>・大掃除を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート「五條高校では、清掃が行き届いており、校内がきれいに整備されている。」 29年度〈目標:70%〉</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大掃除の時間がとれていなかった。</li> <li>・保護者アンケート(目標70%)には届かなかった事は残念だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回大掃除を行うか、期末考査後の掃除の時間を30分程度とるようにする。</li> </ul>	
	1-(2)-① ○ 美化委員会活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当番制で花の水やり活動を進める。</li> <li>・通学路美化活動を実施する。</li> <li>・年2回花の植え替えをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花の水やり活動を毎日実施する。</li> <li>・通学路美化活動を学期に1回実施する。</li> </ul>	A		<ul style="list-style-type: none"> <li>・水やりは、予定通りに実施できたが、3学期の水やりは不要と考える。</li> <li>・通学路清掃は、参加人数が多かった。そのため、別コースを設定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期の水やりは不要とする。</li> <li>・別コース(五万人の森)を設定したことがよかった。</li> </ul>	
	○ 防災教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練等を実施することにより、防災意識を高め、災害から身を守る取組を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災や地震等を想定した避難訓練を5月に実施する。</li> <li>・防災についての放送で生徒に呼びかける。</li> <li>・職員研修を行う。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練は、雨天のため中止となったが、HRで防災・防火に関する資料を配付し、防災意識の育成を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JアラートのHRを2学期に行ったが、避難訓練の有無に関わらず、防災・防火・JアラートのHRを行いたい。</li> </ul>	
第1学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校との違いを認識し五條高校の生徒としての自覚を持たせ、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻の各クラス別年間総数の平均15回未満、欠席が100回未満とする。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末時点でのクラス別平均遅刻数は15回、欠席数は72回である。</li> <li>・2学期以降、不登校傾向が見られる生徒が出てきており、欠席数が急増した。</li> <li>・例年と比べても、挨拶ができない生徒の数が多いと感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校傾向にある生徒に対する効果的で丁寧な指導、助言が必要である。</li> <li>・教員の方からも積極的に挨拶し、お互いに気持ちよく過ごせるようにしていく。</li> </ul>	
	1-(3)-① ○ 部活動への参加を勧める。  1-(1)-① ○ 基礎学力を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と部活動の両立を目指し、学校生活を意欲的に過ごす姿勢を育てる。</li> <li>・授業を最大限に活用し、予習・復習を毎日の習慣とさせて、家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の加入率が80%以上とする。</li> <li>・ほぼ毎日家庭学習をする生徒の割合が70%以上。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末時点での部活動加入率は77%である。3学期になって退部する生徒が出てきている。他の部に改めて入部するような指導、助言が必要である。</li> <li>・生徒対象アンケートの12月の結果では、平日に授業以外に全く学習しない生徒の割合は12.2%であった。休日に全くしない生徒が16.9%と休日に学習しない生徒の割合が多い。家庭学習の定着はなかなか難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動を途中でやめた生徒に対して、学校生活を充実させるように働きかける必要がある。</li> <li>・自分で計画を立てて学習した経験のない生徒がいるので、自分1人でも学習する方法を見つけ、習慣を身につけさせる。</li> </ul>	
	1-(1)-④ ○ 進路目標を明確化させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの興味・関心に基づき、適性を探り、進路についての考えを深め、確固たる進路目標を持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LHR等の時間を利用し、第1学年の間に進路目標が定まった者が、80%以上とする。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の進路について、十分考えている生徒もいるが、まだまだ行き当たりばったりと考えている生徒が多いように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な進路希望、学校名を決められるように、ホームルームや面談、ガイダンスなどの機会を利用して進路決定に向けて考えさせる。</li> </ul>	



第2学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅学年としての自覚をもたせ、遅刻や欠席をせず授業に集中して取り組む姿勢を養う。</li> <li>挨拶、言葉遣い等の礼儀作法を徹底させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻の各クラス別年間総数の平均が25回未満、欠席が85回未満。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月末時点で、クラス別平均遅刻総数32回、欠席が143回。不登校傾向、心身の不調の生徒が多い。</li> <li>挨拶等については、生徒が自覚を持ち、徹底できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導を要する生徒については、学年全体で課題を共有し、日常の声かけや教育相談などに取り組む。</li> </ul>		
	1-(1)-① ○ 自主学習の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の提出、小テストの合格に向けての準備を徹底させ、自主学習を習慣付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日にはほぼ毎日家庭学習をする生徒の割合が70%以上。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日に全く家庭学習をしない生徒は7月の調査で17.0%、12月の調査で26.1%。平均学習時間も減ってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は進路実現に向けての学習の大切さを、様々な機会に喚起したい。</li> </ul>	
	1-(1)-④ ○ 具体的な進路目標を設定させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる場面を通じて、主体的に自己の進路について考えさせ、より具体的な進路目標を設定させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2学年の間に志望校、志望職種が定まった者が85%以上。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>10月末の調査では、具体的な志望校、職種まで定まった者は64%。昨年の2年生は同時期66.8%。定まっていない者も具体的に考えつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任等の面談、各種行事等に積極的に参加させたい。</li> </ul>	
第3学年	1-(3) ○ 規範意識と基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人として必要な挨拶、言葉遣い等の礼儀作法、判断力、規範意識を身に付けさせる。また、残り少ない高校生活を無駄にせず、充実した毎日を過ごさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最高学年としての自覚と責任を持ち、時と場に応じた言動ができる。</li> <li>クラス別年間遅刻総数の平均が40回未満で、欠席総数の平均が90回未満とする。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、言葉遣いなど、ほとんどの生徒が自覚を持ち徹底できた。</li> <li>クラスあたりの遅刻総数の平均は63回、欠席総数の平均は111回であった。昨年度の3年よりも多くなった。心身の不調により、欠席、遅刻の多い生徒が相当数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の指導を受け入れ、努力しようとする姿がほとんどの生徒に見られた。</li> <li>指導を要する生徒について、教員全体で課題を共有し、教育相談等にも取り組む必要がある。</li> </ul>		
	1-(1)-① ○ 自主学習の定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業後の進路を見据えて、授業、進学講習等に能動的に取り組ませるとともに、家庭においても自主的な学習を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日に家庭学習をほぼ毎日する生徒の割合が85%以上。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日に全く家庭学習をしない生徒は、7月の生徒対象アンケート調査で、20.9%、12月の調査で26.1%。昨年度の3年の調査結果より低い。一方、熱心に学習に取り組む生徒もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活を把握し、個々に的確な指導を行う必要がある。</li> </ul>	
	1-(1)-④ ○ 進路目標を決定させ、その実現に向けて取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な進路目標を主体的に決定し、その実現に向けて効果的・能動的に取り組ませる。</li> <li>一人一人の進路に応じて丁寧な指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職、進学の決定率が95%以上。</li> <li>「一人一人の進路に応じて、丁寧な指導が行われている」生徒アンケート・保護者アンケート第3学年が85%以上。</li> </ul>	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、受験する生徒を除く進路未決定のまま卒業する生徒は3人である。</li> <li>12月の生徒対象アンケート調査と保護者対象アンケート調査の結果、生徒77.3%、保護者77.6%。昨年度の3年よりも低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる機会を通じて、本校の学力向上や進路指導の取り組みをきちんと理解してもらえよう個々の生徒・保護者にさらに周知する。</li> </ul>	